

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

春の風が校庭をすべりぬけるころ、学校では「安全週間」が始まった。朝の会で先生は黒板に「交通安全」と「災害への備え」と書き、ぼくたちを見わたして言った。

「どちらも、みんなが毎日を安心して過ごすために欠かせないことだよ。自分には関係ないと思わないことが大切なんだ。」

その言葉が、心の奥に静かにひっかかった。

帰り道、いつものように友だちのまさやとおしゃべりしながら歩いていた。横断歩道の前に来るとき、まさやが急に止まった。

「かすみ、待って。車、まだ止まってないよ。」

ぼくは歩き出しそうになっていて、あわてて足を戻す。車が完全に止まるのを確かめてから渡ったとき、先生の「自分のこととして考える」という言葉が、からだの中でかすかに響いた。

家に帰ると、机の上に黄色い非常持ち出し袋が置いてあった。母が中身を見直していたらしい。

「ちようどいいから、いっしょに確認しよう。」

取り出されたものを順番に見ていく。水、ライト、ばんそうこう、タオル。それから小さな袋のお菓子。

「非常食だよ。避難するときに少しでも元氣が出るようにね。」

母の声を聞きながら、ぼくは「もしものとき」を想像した。真っ暗な夜、学校に行けない日、家を出なければならぬ時……。考えると少しこわい。でも、この袋の中の物たちは、そんな不安を押し返してくれるようだった。母は「備えは、安心するための力にもなるんだよ」と付け加えた。その言葉が、袋よりも重く、静かに胸に落ちた。

次の日は防災訓練があった。机の下にもぐり、頭を守る。訓練なのに胸が少し熱くなる。揺れが終わった後、先生は言った。

「分かっているだけじゃ足りない。体が自然に動く

ように、何度でも練習するんだよ。」

その言葉を聞いたとき、ぼくは昨日の帰り道を思い出した。横断歩道の前で、気をつけたあの瞬間。たった一つの行動が、自分を守ることにつながるのだと気づいた。

放課後、春の雲を見上げながら歩いた。気づけば歩幅がいつもよりゆっくりになっていた。

「安全に気をつけるって、めんどくさいからやるんじゃないんだ。」

交通安全も災害への備えも、「もしものときの自分」を守るための準備だ。見えない危険は、毎日の中にひそんでいる。それに気づくには、自分の中に小さなアンテナを立て続けることが大切なのだ。

家に帰ると、ぼくは母に言った。

「非常袋、ぼくの部屋にももう一つ置いておきたい。」

母は少し驚いたように目を丸くしたが、すぐにうれしそうにうなずいた。

「自分を守ろうとする気持ちは、とても大事だよ。」

その言葉に背中を押されながら、ぼくは胸の中に真っすぐな線が通るのを感じた。安全に気をつけるということとは、「今日のぼく」だけでなく、「明日のぼく」を守ることなのだ。



(1)

帰り道で、横断歩道の前で止まったまさやを見て、主人公はどのような気持ちになりましたか。もっとも本文に合うものを一つ選び番号を○でかこみましよう。

- ① まさやが慎重すぎて、少しイライラした。
- ② 自分が気づかなかった危険をまさやが見つけたことで、はっとした。
- ③ 車は必ず止まると思っていたので安心した。
- ④ 急いでいたので、早く渡ってしまえばよかったと思った。

(2)

本文中の「胸の中に真つすぐな線が通るように感じた」という表現の意味として最も適切なものを、次の中からえらび番号を○でかこみましよう。

- ① 体の中が冷えて緊張したという意味
- ② 注意されたことが心に残り、後悔しているという意味
- ③ 気持ちがあつきりまとまり、自分の中で決意が生まれたという意味
- ④ 痛みを感じて、考える余裕がなくなったという意味

(3)

本文の内容と合っていれば○、まちがっていれば×を書きましよう。

- () まさやは、車が止まる前に自分だけ素早く渡ってしまった。
- () 先生は、防災訓練は一度経験すれば十分だ話していた。
- () 母は避難の時に元気が出るようにお菓子も入れていた。

(4)

主人公が交通安全や災害への備えについて「自分のこととして考える」ようになった理由として最も適切なものを、次の中からえらび番号を○でかこみましよう。

- ① 母に言われたから守らなければならないと思ったから
- ② 自分の行動が、命を守ることにつながると実感したから
- ③ 安全週間のプリントに書いてあったから
- ④ 友だち全員がやっているので合わせたほうがよいと思ったから

(5)

本文の出来事を、起こった順に並べかえましよう。

- ① 母と非常持ち出し袋の中身を確認する。
- ② 防災訓練で先生が「体が自然に動くように練習する」と話す。
- ③ 帰り道で車が止まっていけないことに気づき、横断歩道の前で止まる。
- ④ 主人公が「非常袋を自分の部屋にも置きたい」と言う。

(6)

主人公は、安全に気をつけることについてどんな気づきを得ましたか。本文の内容に合わせて三十字以内で書きましよう。



(1) 帰り道で、横断歩道の前で止まったまさやを見て、主人公はどのような気持ちになりましたか。もつとも本文に合うものを一つ選び番号を○でかこみましよう。

- ① まさやが慎重すぎて、少しイライラした。
- ② 自分が気づかなかった危険をまさやが見つけたことで、はっとした。
- ③ 車は必ず止まると思っていたので安心した。
- ④ 急いでいたので、早く渡ってしまえばよかったと思った。

(2) 本文中の「胸の中に真つすぐな線が通るように感じた」という表現の意味として最も適切なものを、次の中からえらび番号を○でかこみましよう。

- ① 体の中が冷えて緊張したという意味
- ② 注意されたことが心に残り、後悔しているという意味
- ③ 気持ちがあつきりまとまり、自分の中で決意が生まれたという意味
- ④ 痛みを感じて、考える余裕がなくなったという意味

(3) 本文の内容と合っていれば○、まちがっていれば×を書きましよう。

- (×) まさやは、車が止まる前に自分だけ素早く渡ってしまった。
- (×) 先生は、防災訓練は一度経験すれば十分だ話していた。
- (○) 母は避難の時に元気が出るようにお菓子も入れていた。

(4) 主人公が交通安全や災害への備えについて「自分のこととして考える」ようになった理由として最も適切なものを、次の中からえらび番号を○でかこみましよう。

- ① 母に言われたから守らなければならないと思ったから
- ② 自分の行動が、命を守ることにつながると実感したから
- ③ 安全週間のプリントに書いてあったから
- ④ 友だち全員がやっているので合わせたほうがよいと思ったから

(5) 本文の出来事を、起こった順に並べかえましよう。

- ① 母と非常持ち出し袋の中身を確認する。
- ② 防災訓練で先生が「体が自然に動くように練習する」と話す。
- ③ 帰り道で車が止まっていけないことに気づき、横断歩道の前で止まる。
- ④ 主人公が「非常袋を自分の部屋にも置きたい」と言う。

(6)

主人公は、安全に気をつけることについてどんな気づきを得ましたか。本文の内容に合わせて三十五字以内で書きましよう。

③ ↓ ① ↓ ② ↓ ④

解答例
自分の行動や準備が、もしものときに命を守る大切な力になると気づいた。